

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8509
 住 所 東京都港区芝浦三丁目4番1号 グランパークタワー
 氏 名 川崎オキシトン株式会社
 取締役社長 前田 久雄 印
 (代理人) 工場長 北原 和孝
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎オキシトン株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区小島町3-9		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	液化ガス・圧縮ガスの製造、販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	22,849	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎工場
		所在地	川崎市川崎区小島町3-9
		電話番号	044-299-5401
		FAX番号	044-266-9979
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 27年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 44,646 t-CO ₂ (調) 44,549 t-CO ₂	(実) 44,174 t-CO ₂ (調) 44,079 t-CO ₂	(実) 41,858 t-CO ₂ (調) 41,768 t-CO ₂	(実) 43,147 t-CO ₂ (調) 43,054 t-CO ₂	(実) 43,308 t-CO ₂
削減率		(実) 1.1 % (調) 1.1 %	(実) 6.2 % (調) 6.2 %	(実) 3.4 % (調) 3.4 %	(実) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	t-CO ₂ /Nm ³	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.3241	0.3224	0.3026	0.3204	0.3143
削減率		0.5 %	6.6 %	1.1 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	排出量は市場出荷が減少した影響で基準年度比1.1%減となった。一方、原単位は生産数量の減少により基準年度比0.5%減となった。
第2年度	排出量は市場出荷が減少した影響で基準年度比6.2%減となった。一方、原単位は生産数量の減少により基準年度比6.6%減となった。
第3年度	CO ₂ 排出量は、市場出荷が減少した影響で減少となり基準年度比3.4%減となり目標達成。 一方原単位は、生産数量の減少により、結果原単位が基準年度比1.1%減となり目標未達成。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 管理マニュアルを整備し、本社部門と相互に研修体制を構築出来る様に検討する。 ○主要設備当の保安全管理 主要設備の保安全管理標準を整備し、定期的に見直しを行い保安全管理の最適化を推進する。 ○照明設備の運用管理 老朽化した照明設備を順次、節電型ランプに交換し3年を目標に50%以上の普及率を目指す。 ○照明設備の保安全管理 不定期で実施している保安全管理を定期的に変更し照明設備の保守・点検の強化を図る。
	第 1 年度	計画の見直しにより、平成 26 年度以降とする。
	第 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○照明設備の運用管理 老朽化した照明設備を順次、節電型ランプに交換の実施。
	第 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○照明設備の運用管理 不定期で実施している保安全管理を定期的に変更し、照明設備の保守・点検の強化を実施。また不要箇所の消灯の実施。 ○主要設備等の保安全管理 劣化し効率の落ちた機器の全分解整備の実施。また効率の良いプログラムによる設備の運転を検討。
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	1. エネルギー効率評価
第1年度	製造装置の効率評価を監視システムを用いて実施、原単位向上、CO2排出量抑制を行った。
第2年度	製造装置の効率評価を監視システムを用いて実施、原単位向上、CO2排出量抑制の継続。
第3年度	製造装置の効率評価を監視システムを用いて実施、原単位向上、CO2排出量抑制の継続。

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. グリーン調達の推進
第1年度	ISO14001認証の企業製品への切り替えを検討。
第2年度	ISO14001認証の企業製品への切り替えを継続。
第3年度	ISO14001認証の企業製品への切り替えを継続。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	46,960	t-CO ₂
(調)	46,123	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区小島町3-9	1623	圧縮ガス・液化ガス製造業	46,960 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--